

# 表紙のご紹介

今号の表紙は尾張西支部（冨田昭夫支部長）が担当され、表紙を飾っていただきました企業は「株式会社リバイブ」です。

可能性をすてない。  
**Revive 株式会社リバイブ**

- ・代表取締役社長 平沼伸基氏
- ・愛知県弥富市西中地町五右  
135-2



平沼社長（工房にて）

・昭和39年「平沼建設」創業、平成11年「株式会社リバイブ」に社名変更。60年の歴史を持つ建設・解体・産業廃棄物処理の老舗の企業です。

同社は総合解体、及び産業廃棄物処理（収集運搬、中間処理）が主体となっておりますが、「リユースへの取り組み」として、解体現場から建材を活かし取り（サルベージ）、家具材や建築資材として再流通させることを目的とした店舗展開を試みています。

価値をグレードアップするキーワード「**Re**」はReviveのReとして、再び・さらに・新たに・もう一度繰り返すことを意味します。価値を見直し、適切な処理・分別、無駄を少なくすることで資源を循環させていく。モノを大切に作る世界を「Re」の力でつくっていくことが、同社の活動領域です。

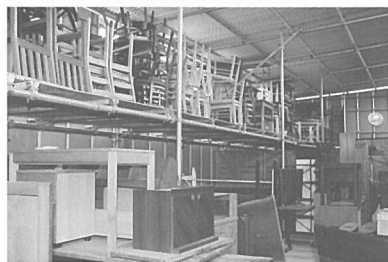
表紙撮影をさせていただいた場所は、SALVAGE



CENTER「KANIE YARD」の工房で、解体現場からサルベージされた品々が多数保管されていました。



店舗用品・家の扉、欄間、柱、テーブル、椅子、照明器具、洋服箆笥、茶箆笥等、食器等数々の品がありました。



リユースするには、お客様が展示品を使用目的に合わせてオーダーメイドされたり、DIYが得意なお客

様はライフスタイルに合わせて自身でリメイクするなど、活用の形態は様々です。

工房にはクラフトマンが常駐し、サルベージ品を商品化しています。また、購入者の相談やアドバイス等にも対応しています。

店舗展開のショップは「**March REUSE DEPOT**」に伺いました。

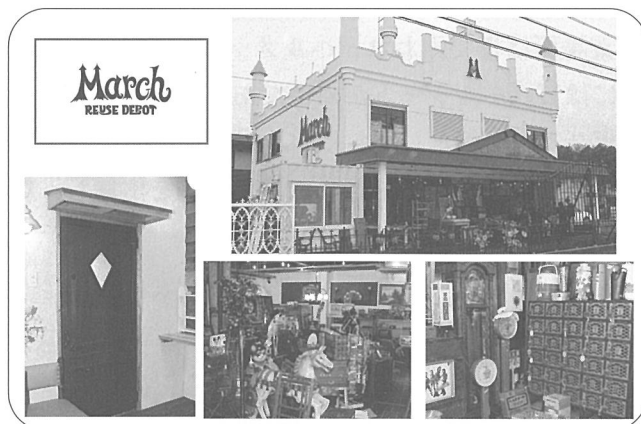
この店舗は元々地域の方々に親しまれていた有名な玩具店でした。時代の流れから店舗を閉店し4年のあいだ空き店舗だった同地を、平沼社長が同社のリユース品の販売店として活用させていただきたいと申し出られ、お城のフォルムのまま思い出の建物はリユースされることになりました。

2階建ての店舗には古材や古物がおもちゃがディスプレイされ、とてもノスタルジックな雰囲気があり、楽しい空間作りが成されていました。

また、印象的だったお手洗いの扉をはじめとするインテリアや、店前のアイアンフェンスなどのエクステリア、屋根に設置されている太陽光パネルには、解体現場からサルベージした古材をアップサイクルした材料が使われています。

他にもクラフトマンが流木の枝で鏡のフレームを作った品など、廃棄物に新たな命を吹き込む楽しさが伝わってきました。

最後に、「表紙に掲載していただきありがとうございます。当社はリユースによる資源循環の可能性を拡げることが、豊かな循環経済につながると考えて新規事業を始めました。産廃の適正処理・リサイクルと同様に、持続可能な社会の一助になるように取り組んでいきます。」と想いを語られました。



・ **March**  
津島市莪原町神守前 33-1  
・ **amber**  
名古屋市中川区新家 2-1702  
※巻末に表紙コメント掲載